

第2期大館市総合戦略の取組状況

1 趣旨

「第2期大館市総合戦略(令和2年度から令和6年度)」における基本目標及びKPI(重要業績評価指標)について、令和4年度の目標値に対する実績値等を示すもの。

2 4つの基本目標の達成状況

■(1) 健やかに次代を育む施策の推進(ひとづくり)

合計特殊出生率
1.47(H27) 1.63(R2～R6平均)
<R4年度実績値> 1.22 前年度比0.11ポイント減
婚姻数
251件(H29) 268件(R4)
<R4年度実績値> 175件 前年度比2件増

■(2) 支援連携と新たな地域社会の形成(暮らしづくり)

健康高齢者割合(65歳以上人口のうち要介護認定を受けていない者の割合)
80.6%(H30) 81.5%(R4)
<R4年度実績値> 79.7% 前年度と同値
市民満足度(まちづくりの目標平均)
61%(H29) 64.0%(R4)
<R4年度実績値> 61.6% 令和2年度比0.2ポイント減

■(3) 地域の特性を活かした産業振興(ものづくり)

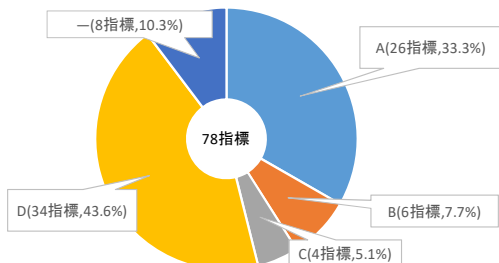
雇用等創出数
5,450人(H31.4時点) 5,630人(R4)
<R4年度実績値> 5,536人 前年度比80人減
製造品出荷額等
1,388億円(R1公表分) 年度目標設定無
<R3年度公表分(参考)> 1,541億円
認定新規就農者数
11人(H30) 14人(R4)
<R4年度実績値> 9人 前年度と同値
林業・木材産業雇用者数
320人(H30) 338人(R4)
<R4年度実績値> 人 照会中
主な園芸作物販売額
(主要6品目・とんぶり、山の羊、アスパラガス、えだまめ、ネギ、キュウリ)
6.2億円(H30) 7.8億円(R4)
<R4年度実績値> 3.3億円 前年度比0.3億円減

■(4) 交流人口の拡大とAターン・定住促進(物語づくり)

観光入込客数
207万人(H30) 237万人(R4)
<R4年度実績値> 179万人 前年度比41万人増
Aターン者数(市等が関与しているもの)
20人(H30) 24人(R4)
<R4年度実績値> 18人 前年度比6人減

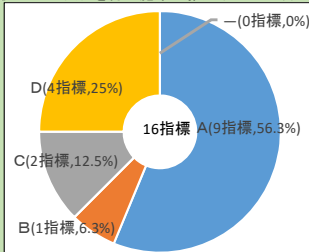
3 KPIの達成状況(総合評価)

KPI78指標のうち、概ね達成以上(A及びB)の割合は41.0%、ある程度達成以下(C、D及び「-」)の割合は59.0%であった。



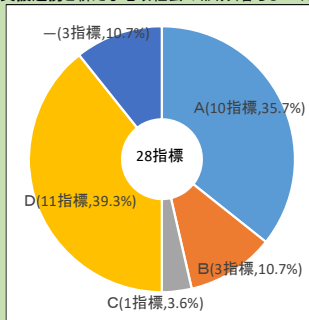
4 4つの基本目標ごとの主なKPI達成状況

(1) 健やかに次代を育む施策の推進(ひとづくり)



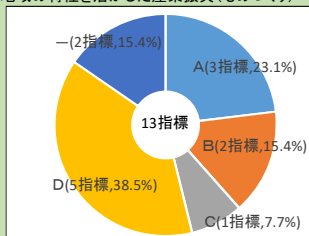
- おのおの達成以上(62.6%)
 - ・待機児童数 (R4目標値:6人、実績値:0人)
 - ・結婚新生活スタートアップ助成金交付者数 (R4目標値:13人、実績値:21人)
 - ・高校生の県内就職率 (R4目標値:71.0%、実績値:71.3%) 等
- ある程度達成以下(37.5%)
 - ・プライダル資金利子補給助成額 (R4目標値:1,030千円、実績値:382千円)
 - ・若年者向けライフプランセミナー参加者数 (R4目標値:300人、実績値:12人) 等

(2) 支援連携と新たな地域社会の形成(暮らしづくり)



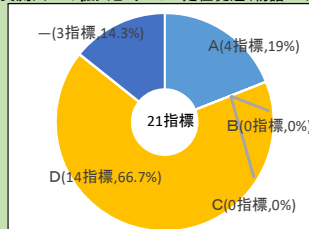
- おのおの達成以上(46.4%)
 - ・健康ポイント事業参加者数 (R4目標値:2,100人、実績値:1,974人)
 - ・認知症サポーター数 (R4目標値:7,500人、実績値:7,563人)
 - ・障がい者サポーター数 (R4目標値:200人、実績値:324人)
 - ・総合病院における診療看護師数(資格取得者数) (R4目標値:3人、実績値:3人) 等
- ある程度達成以下(53.6%)
 - ・ハチ公スノーレンジャーの登録者数 (R4目標値:1,970人、実績値:1,323人)
 - ・自主防災組織等が関連する訓練参加人数 (R4目標値:380人、実績値:260人)
 - ・認知症あんしんサポート事業所数 (R4目標値:40人、実績値:10人) 等

(3) 地域の特性を活かした産業振興(ものづくり)



- おのおの達成以上(38.5%)
 - ・新技術・新商品開発補助金の利用件数 (R4目標値:27件、実績値:36件)
 - ・資格取得支援事業の利用件数 (R4目標値:170件、実績値:265件)
- ある程度達成以下(61.6%)
 - ・サテライトオフィス事業による事業所開設件数 (R4目標値:7件、実績値:5件)
 - ・木質バイオマス(チップ、ペレット)生産量 (R4目標値:34,000t、実績値:17,720t)

(4) 交流人口の拡大とAターン・定住促進(物語づくり)



- おのおの達成以上(19.0%)
 - ・新規の大規模集客型スポーツイベントの開催 (R4目標値:1件、実績値:1件)
 - ・教育旅行誘致人数 (R4目標値:712人、実績値:919人)
- ある程度達成以下(81.0%)
 - ・宿泊者数 (R4目標値:25.5万人、実績値:23.5万人)
 - ・Aターン者数(市等が関与したもの) (R4目標値:24人、実績値:18人)
 - ・空き家バンク新規契約数 (R4目標値:40件、実績値:29件)

5 取組内容、今後の方向性等

・結婚新生活スタートアップ助成金や結婚支援センター登録料助成等により、出会い・結婚に係る経済的負担が軽減されている。一方、婚姻数・出生数は減少しているため、結婚・出産のフェーズのみならず、その後の子育て、教育まで一連の支援を強化していく必要がある。

・待機児童数は目標を達成できたが、私立認可保育所や認定こども園の増改築、企業主導型保育事業に取り組む事業所に対し、引き続き積極的な支援を行う。

・婚姻数、出生数の改善に向けて、中長期的な視点に立ち、若年者が結婚や出産、子育てについて具体的なイメージを抱く機会を提供していく。(新型コロナウイルスにより大規模な開催はできなかったため、中高生の職場見学等を活用するなど、今後の有効な実施方法を検討していく)

・健康寿命の延伸に向け、健康ポイント事業のさらなる周知徹底と、多くの検診で対象初年度となる40歳のかたが検診を受けた場合にポイントを付与するなど参加者増加に向けたメニューを追加した。

・共生社会の実現と全ての社会的障壁の除去を目指し、高齢者や障害のある方等全ての市民が安全・安心に暮らすことができる「バリアフリーのまちづくり」を展開する。

・医師不足の中において、医師の負担軽減につながる「診療看護師」の養成を引き続き進めていく。

・人口減少、少子高齢化が進んでも、誰もが暮らしやすく愛着を持てる地域づくりのため、様々な支え合い体制の強化を図っていく必要がある。(ハチ公スノーレンジャーの確保、認知症あんしんサポート事業所の認定、地域応援プラン活用による町内会等コミュニティの維持活性化など)

・実績が堅調な「新技術・新商品開発補助金」「資格取得支援事業」の利用を引き続き促進し、市内事業者や求職者・高校生等を支援する。

・サテライトオフィス体験事業を13件実施したほか、マッチングイベントやオンラインイベントにするなど市の事業環境PRに努めた。

・主な園芸作物販売額は、夏場の天候不順や豪雨による生育不良により収量が減少した。他産地の不作による単価上昇や販売増があった作物があったものの、今後も農産物の高付加価値化及び所得の向上を図っていく必要がある。

・新型コロナウイルスの影響下にあいながらも、オリンピック・パラリンピックを招いての新規スポーツイベントや、教育旅行の誘致など観光とは別の角度からの交流人口拡大を図った。

・新型コロナウイルスの影響により、観光面では人の動きが制限され、実績値も低調であった。今後見込まれる人流の復調を見越し、ハチ公生誕100年事業に関連するイベントなどをきっかけとして観光客の誘致のみでなく、大館の魅力を発信し、移住者の増などにつなげていく。

※達成度の目安:A「達成(100%以上)」、B「概ね達成(70%以上)」、C「ある程度達成(50%以上)」、D「未達成(50%未満)」、-「未実施等」

第2期総合戦略 数値目標、重要業績評価指標(R4年度)

No	施策項目	重要業績評価指標(KPI)	単位	基準値		R4		令和4年度の取組状況等
				年度		目標値	実績値	
基本目標1 数値目標		合計特殊出生率	人	H29	1.47	-	1.22	令和4年の出生数は308人(秋田県の人口と人口動態から)となっている。出生数の増加・出生率の改善には、「結婚から出産」という流れを作り出すことが必要であり、若年者婚姻支援事業や結婚新生活スタートアップ支援事業による婚姻支援、「はちくんすくすく子育て支援事業」、「在宅子育て支援給付金」、子育て世帯の家事代行を行う「養育支援訪問事業」など出産・子育てを応援する事業を展開することで、出生数の減少を抑制していく。
		婚姻数	件	H29	251	268	175	令和3年度に引き続き若年者婚姻支援事業(あきた結婚支援センター入会登録料助成、ブライダルローン利子補給、結婚祝い金)や結婚新生活スタートアップ支援事業を展開した。入会登録料助成については、前年度の18人から37人に増加した一方で結婚祝い金の助成は0件であった。婚姻数を急激に、大幅に増加させることは困難ではあるが、これらの施策を着実に周知・執行することで、婚姻を希望する方々の後押しをしていきたい。
1	1-①-(1)	2歳以下児童の子育て支援施設の平均利用回数	回	H30	7	9	8	子どもの遊び場の設置工事のため、約6か月程度場所を変更して開設していたため、目標値を達成することができなかった。
2	1-①-(1)	0～1歳児の在宅での保育割合	%	H30	47	40	49	在宅子育て支援給付金制度が定着したのか、在宅での保育割合が増加した。
3	1-①-(1)	一人当たりの都市公園面積	m ² /人	H30	15.8	16.2	16.6	公園不足地域における公園の設置を検討した。
4	1-①-(1)	通学路防犯灯整備区間数	区間	H30	0	6	7	特に問題等発生せず順調に整備が進んだ。
5	1-①-(2)	待機児童の解消	人	H31	21	6	0	目標は達成したものの、依然として根本的な待機解消には至っていない。
6	1-①-(3)	子育て・三世帯同居世帯へのリフォーム支援件数	件	H30	102	100	97	広報やホームページで市民へPRを行い、制度の周知を図った。
7	1-①-(4)	産後2週産婦への電話訪問実施率	%	H30	93.9	95.1	94.5	産後早期に母子の状況を把握し、必要な支援に繋げている。妊娠中や病棟訪問時の事業の周知を継続し、実施率を上げる工夫が必要である。
8	1-①-(5)	待機児童の解消※1-①-(2)と同じ	人	H31	21	6	0	〃
9	1-②-(1)	あきた結婚支援センター登録料助成者数	人	H30	26	34	37	令和3年度から倍増し、目標を達成した。広報や記者会見のほか、成人式でのパンフレット配布による周知効果が表れたものと考えられる。
10	1-②-(1)	ブライダル資金利子補給助成額	円	H30	789,800	1,030,000	382,700	新型コロナの影響が続き、ブライダルローンを組む新婚世帯が少なかったと推測される。コロナ収束後の需要は不明だが、引き続き支援を続けていく。令和4年度新規の助成対象は2組であった。
11	1-②-(1)	結婚新生活スタートアップ助成金交付者数	人	H30	10	13	21	交付者数は順調に伸びている。所得要件などにより対象外になってしまうケースがあるが、婚姻に伴う経済的負担を軽減するという趣旨に鑑み、周知不足による申請漏れなどが発生しないよう、引き続き認知度向上を図る。
12	1-②-(2)	若年者向けライフプランセミナー参加者数	人	—	—	300	12	令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、中学校単位でのライフプランセミナー開催を行うことができなかった。中学生の職場見学の際に外部から講師を招き、小規模ではあるがライフプランセミナーを開催した。
13	1-③-(1)	高校生の県内就職率	%	H30	65.7	71.0	71.3	高校生などへの企業説明会を開催するなど、関係各機関と連携した取組みが奏功し、目標値を達成した。
14	1-③-(1)	子どもハローワーク受入れ件数	件	H30	164	184	84	子どもハローワーク参加人数は、84件にのべ約600名となり、昨年度より150名増えた。きりたんぼまつり等大型イベントでのボランティア、様々な分野のプロフェッショナルの協力を得ながら、受け入れ先の数が徐々に回復し、体験活動を児童生徒に提供できた。
15	1-③-(1)	社会人の学び直しの講座数	講座	H30	0	4	33	各種オリジナル講座や企業版ふるさと納税の寄附による特別講座を開催した。受講者が限定的とならないよう、市民ニーズを捉え、講座に反映させていくと共に、周知をより広く行う。
16	1-③-(2)	英語が好きな児童の割合	%	H30	49.2	58	44	小学校英語教育推進委員会で、小・中の学習内容のつながりや授業の在り方を検討してきた。秋田県学習状況調査児童生徒質問紙において、小6から中1にかけて、意欲が継続され段階解消の兆しが伺える。また、小学校英語教育推進アドバイザーが、希望する園の年中・年長児への「英語で遊ぼう」(年1～5回程度)、全小学校1・2年生(3学期に2回)の外国語に親しむ活動を実施した。
17	1-③-(3)	奨学金返還助成制度における特定就職者数(助成認定者のうち賛同企業への就職者数)	人	H30	4	18	21	就活イベントでのチラシ配布や市内広報等の周知活動の結果、賛同企業が新たに4社増加し、特定就職者も目標を上回る人数となった。

第2期総合戦略 数値目標、重要業績評価指標(R4年度)

No	施策項目	重要業績評価指標(KPI)	単位	基準値		R4		令和4年度の取組状況等
				年度		目標値	実績値	
基本目標2 数値目標		健康高齢者割合(65歳以上人口のうち要介護認定を受けていない者の割合)	%	H30	80.6	81.5	79.7	通いの場の拡大、介保予防の取組の推進、ボランティア活動などの社会参加の機会の提供に向けた取り組みのほか、地域の人が互いに支えあうための多様な主体による生活支援サービスの提供体制の整備に向けた支援等に取り組んだが、実績が目標値及び基準値を下回る結果となった。 要因は、5年間(H30→R4)で、市の高齢者人口は570人減少したが、介護(要支援)認定者数が155人増加しているため。 今後も取り組みを継続し、健康高齢者割合の増加を図っていく。
		市民満足度(まちづくりの目標平均)	%	H29	61	64	61.6	満足度は前回調査時より0.2%減。※今回よりWEB回答の併用を導入。現計画の中間評価として実施したものであり、次期大館市総合計画の策定に向け、市民ニーズの把握、課題の掘り起こしの資料として、活用していく。
18	2-①-①	国民健康保険の特定健康診査受診率	%	H30	28.1	36	32.5 (R3法定報告値)	集団方式・医療機関方式で実施。AIによる分析を活用した受診勧奨や追加項目として推定塩分摂取量測定を実施。さらにはがきによる受診勧奨後、電話による勧奨を実施。R4年度実績はR3年度実績を超える見込み。 今後も受診者特性に合わせた効果的な勧奨を継続する。
19	2-①-①	国民健康保険の特定保健指導実施率	%	H30	6.2	18	5.0 (R3法定報告値)	参加者増加に向け、電話勧奨や分割支援(検診会場で初面接)を3地区で実施。参加者の都合に合わせて日程を変更するなど参加しやすい対応をしている。 今後も参加者増加に向けた工夫が必要である。
20	2-①-①	健康ポイント事業参加者数	人	H30	1,334	2,100	1,974	広報、地元新聞での周知や市内商業施設、医療機関等にポスターを掲示するなど周知に努めたことで、参加者が増加した。 また、若い年代の参加者を増やすことを目的に、多くの検診の対象初年度となる40歳への市の健診を受けた場合のボーナスポイントを実施。
21	2-①-②	介護予防・通いの場の数	か所	H30	15	80	25	高齢者の閉じこもりの防止と住民主体で介護予防に資する活動に取り組む団体を支援する事業。R4年度の申請団体は25団体で、新型コロナウイルス感染症拡大により実施を控える団体が多く目標値を下回った。今後も感染症の状況を注視しながら、市社会福祉協議会のふれあいいきいきサロン実施団体等への働きかけや、広報、新聞等での周知により実施団体数の増加を図る。
22	2-①-②	シニアいきいきポイント事業参加者数	人	—	—	120	39	高齢者自らの介護予防と社会参加・地域貢献の奨励を目的として、ボランティア活動に参加した高齢者に対して商品券に交換可能なポイントを付与する事業。令和4年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の懸念から受入施設及び参加者が活動を控えたことにより、参加者数は39人で目標値を下回った。 今後も、新型コロナウイルス感染症の状況を注視して事業を進めていく。
23	2-①-②	認知症サポーター数	人	H30	5,519	7,500	7,563	認知症に対する理解と啓発活動を促進するため、各地域包括支援センターの認知症地域支援推進員、認知症サポーターキャラバンメイトとの連携により、令和4年度は認知症サポーター養成講座を17カ所で開催して330名を養成。目標値を上回る実績となっている。
24	2-①-③	障がい者サポーター数	人	—	—	200	324	新型コロナウイルス感染症防止対策をしたうえで身体障害を理解するための講座を開催し、「心のバリアフリー」に対する啓発を図った。
25	2-①-④	ハチ公スノーレンジャーの登録者数	人	H30	1,828	1,970	1,323	市広報での登録者募集や、除雪活動の地元新聞・社会福祉協議会広報への掲載により事業の周知を図っているが、新型コロナウイルスの影響もあり、登録者数が減少した。
26	2-①-⑤	さわやかサポーター数	人	H30	39	150	305	元気な高齢者が支援を必要とする高齢者を支える地域づくりの推進を目的に、生活支援サービスの担い手を養成する取組。新型コロナウイルス感染防止対策として、R4年度は地区毎に開催し、新たに55名を養成。実績は目標値を上回っており、引き続き事業を推進する。
27	2-①-⑤	在宅医療・介護連携推進協議会市民講座参加者数	人	H30	114	140	0	新型コロナウイルス感染症予防対策のため、開催しなかった。
28	2-①-⑤	訪問型生活支援サービス取組団体	団体	H30	0	3	1	さわやかサポーター養成講座受講者が主体となって住民主体の生活支援サービスを実施する団体を支援するもの。R4年度は市内の1団体が取組みを開始した。今後も生活支援コーディネーターと連携して他地域の団体に対して事業実施を働きかけていく。
29	2-①-⑥	移住者が転入した町内(地域)数	か所	H30	33	37	70	移住支援を継続していることにより、実績がさらに伸びている。今後も支援を継続したい。
30	2-①-⑥	地域の現状把握に取り組み始めた町内数	か所	H30	3	5	3	コロナ禍により停滞した地域活動が復調しきらず、実施に至った町内がなかった。
31	2-②-①	地域応援プラン活動実施累計団体数	団体	H31	71	83	75	これまでの傾向と変わりなく、新規応募団体数は数件のみという状況である。少子高齢化や担い手不足に加え、地域応援プランは複数年に渡る取組を見据えた活動が必要であることから、この傾向はなかなか変わらないものと考えられる。 まちづくり団体事業費補助金の累計活用団体は増えていることから、申請の中で、備品などの購入に留まらない活動を検討している団体へ情報を周知するなど、応募を促していく。
32	2-②-②	市道改良率	%	H30	79.6	80	80.2	目標以上に達成しており、市道の改良が進み生活環境の向上が図られている。
33	2-②-③	自主防災組織等が関連する訓練参加人数	人	H30	322	380	260	新型コロナウイルス感染症対策で、訓練の規模縮小や中止があったため、参加人数が伸びなかった。
34	2-②-③	防災ドローン整備数	台	H30	1	0	0	取組なし
35	2-②-④	コミュニティFMの連携番組	番組	—	—	1	3	3番組と連携し、1回当たり5分間、市政情報等を放送するとともに、随時情報提供を行った。(計471コマ)

第2期総合戦略 数値目標、重要業績評価指標(R4年度)

No	施策項目	重要業績評価指標(KPI)	単位	基準値		R4		令和4年度の取組状況等
				年度		目標値	実績値	
36	2-③-(1)	急性期病棟における重症患者割合(総合病院)	%	H30	30以上	30以上	33.5	地域包括ケア病棟の活用や退院支援等で軽症患者の早期退院に取り組んだ。
37	2-③-(1)	訪問看護の件数(扇田病院)	件	H30	904	940	1001	体制整備により、目標を上回った。
38	2-③-(1)	フューチャードクターセミナー、病院見学開催	回	H30	1	1	0	新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑みて開催しなかった。
39	2-③-(1)	総合病院における診療看護師数(資格取得者数)	人	H30	0	3	3	診療看護師資格取得者1名を採用した。
40	2-④-(1)	AI・RPAの導入業務数	業務	—	—	4	3	ふるさと納税寄付サイトを追加予定であったが、中間事業者の変更により令和5年度実施となったため、前年度同様3業務となった。
41	2-④-(2)	電子申請業務数	業務	H30	3	6	29	マイナポータルサイトの電子申請(ピタリサービス)に移行し、既存業務を含め、29業務の電子申請に対応した。
42	2-⑤-(1)	認知症サポーター数(再掲)	人	H30	5,519	7,500	7,563	認知症に対する理解と啓発活動を促進するため、各地域包括支援センターの認知症地域支援推進員、認知症サポーターキャラバンメイトとの連携により、令和4年度は認知症サポーター養成講座を17カ所で開催して330名を養成。目標値を上回る実績となっている。
43	2-⑤-(1)	成年後見制度の利用件数	件	H30	2	8	4	認知症により判断能力が十分でなかったが地域で生活できるよう、市長申立の審判費用等を助成して成年後見制度利用を促進する取組。R4年度の市長申立実績は3人、報酬助成は1人で昨年度より倍増したが目標値は下回った。引き続き、R3年度末に設置した「大館市成年後見支援センター」を活用して、制度の周知と利用促進を図ってきたい。
44	2-⑤-(1)	認知症あんしんサポート事業所数	事業所	—	—	40	10	認知症のかたとやその家族をサポートする取り組みを実施している市内の事業所を「認知症安心サポート事業所」として認定するもの。コロナ禍のため事業所に積極的な働きかけが困難であったため、R4年度は認定実績が目標値を下回る結果となった。今後も、事業所に取り組みに関する情報提供や周知を図りながら認知症サポーターの増加に向けて働きかけを行っていく。
45	2-⑤-(1)	障がい者サポーター数(再掲)	人	—	—	200	324	新型コロナウイルス感染症防止対策をしたうえで身体障害を理解するための講座を開催し、「心のバリアフリー」に対する啓発を図った。
46	2-⑥-(1)	基幹管路耐震化更新率	%	H30	52.7	93.5	81.5	生活基盤施設耐震化等交付金事業にて主要配水管を更新し耐震化の向上を図った。
47	2-⑥-(1)	危険ブロック塀等の撤去への支援	件	H30	5	45	9	広報やホームページで制度周知を図りながら、現地確認の際には周辺ヘチランを配布し更なる周知に努めたが、目標達成には至らなかった。

第2期総合戦略 数値目標、重要業績評価指標 (R4年度)

No	施策項目	重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値		R4		令和4年度の取組状況等
				年度		目標値	実績値	
基本目標3 数値目標		雇用等創出数(条例指定工場雇用創出数と新規創業者数(補助金利用者)の計)	人	H31.4時点	5,450	5,630	5,536	労働生産人口の減少に伴い目標を下回る人数となった一方で、新規創業者数は増加しており、アフターコロナを契機に気運が高まりつつあることから積極的な支援を実施していきたい。
		製造品出荷額等	億円	R1公表(H29年度分)	1,388	-	1,541	人材不足や原材料価格の上昇等の要因から、前年から下回る結果となった。引き続き企業誘致活動及び地元企業の成長支援の実施に努めていく。
		認定新規就農者数	人	H30	11	14	9	新規就農者1名、2年後に就農する事を目的とした農業育成研修生1名。JAや認定農家などの関係機関との連携・情報交換を定期的に行っているが、情報や就農相談の件数はあるものの、要件が整わず相談のみに留まり、目標達成に至らなかった。
		林業・木材産業雇用者数	人	H30	320	338	280	森林整備分野、木材加工分野共に雇用者数が漸減傾向であるため、新規就業者の確保や人材育成を目的とした林業新規就業者雇用人材育成支援事業を施行し、雇用増加を図る取り組みを進めた。
		主な園芸作物販売額(主要6品目:大館とんぶり、山の羊、アスパラガス、えだまめ、ねぎ、キュウリ)※3-①-(1)と同じ。	億円	H30	6.2	7.8	3.3	夏場の天候不順や豪雨による生育不良により収量は減少した。他産地の不作などでの高単価となったものや販売が好調だった作物があったものの収量の減少が販売額に影響し目標達成には至らなかった。
48	3-①-(1)	主な園芸作物販売額	億円	H30	6.2	7.8	〃	〃
49	3-①-(1)	大館とんぶり農家数	戸	H30	10	13	5	生産者の高齢化、農家の減少が以前として続いており、新規参入者確保が課題である。
50	3-①-(1)	大館とんぶり生産量	t	H30	70.0	86	41	収量は微減に留まっているが、生産者・栽培面積ともに減少しておりこれ以上の拡大は難しく、目標達成が困難な状況である。
51	3-①-(2)	担い手への農地集積率	%	H30	54.5	66	64.0	法人等を中心とした担い手への農地集積が進んでいるものの、担い手の高齢化や法人解散などの要因も発生し、対前年比1.8%の増となったものの、目標とする3.0%増には至らなかった。
52	3-②-(1)	素材(丸太)生産量	m	H30	115,545	125,000	98,991	住宅着工件数の減少などにより川下の木材需要が伸び悩んでいるため素材生産量も増加しない。デジタル林業などの省力化の取り組みと併せて、ウッド・チェーン補助金などで需要の増加を図り、素材生産量の増加につなげていく。
53	3-②-(1)	林業・木材産業雇用者数	人	H30	320	338	280	森林整備分野、木材加工分野共に雇用者数が漸減傾向であるため、新規就業者の確保や人材育成を目的とした林業新規就業者雇用人材育成支援事業を施行し、雇用増加を図る取り組みを進めた。
54	3-②-(2)	木質バイオマス(チップ、ペレット)生産量	t	H30	30,930	34,000	17,720	目標値を下回る結果となった。林政課や商工課と連携し、バイオマス利活用と地球温暖化対策を推進する。
55	3-③-(1)	融資あっせん制度の融資実行件数	件	H30	314	300	112	原油価格の高騰による原材料費の高騰等により資金繰りが厳しくなった事業者が多く、利用者が増加した。
56	3-③-(2)	サテライトオフィス事業による事業所開設件数	件	H30	1	7	5	新たな実績の増加には繋がらなかったが、コロナ後を見据え、サテライトオフィス体験事業を13件実施したほか、総務省主催のサテライトオフィスマッチングイベントやオンラインピッチイベントへ参加し、市の事業環境PRIに努めた。
57	3-③-(3)	新技術・新商品開発補助金の利用件数	件	H30	7	27	36	既存の補助制度に加え、コロナ禍の影響により売り上げが減少した事業者向けの申請枠を設けた結果、目標値を上回る実績となった。
58	3-③-(4)	業務継続計画策定研修の参加者数	人	H30	0	45	39	民間保険会社等の事業継続力強化計画(BCP)策定支援が増加したことに伴い、研修の受講者は減少し、目標を下回る結果となった。
59	3-④-(1)	高校生の県内就職率(再掲)	%	H30	65.7	71	71.3	高校生などへの企業説明会を開催するなど、関係各機関と連携した取組みが奏功し、目標値を達成した。
60	3-④-(1)	奨学金返還助成制度における特定就職者数(助成認定者のうち賛同企業への就職者数)(再掲)	人	H30	4	18	21	就活イベントでのチラシ配布や市内広報等の周知活動の結果、賛同企業が新たに4社増加し、特定就職者も目標を上回る人数となった。
61	3-④-(2)	創業支援補助金の利用件数	件	H30	12	24	29	コロナ禍で創業を控えていた利用者からの相談及び申請が増加したため、目標を上回る支援を行うことができた。
62	3-④-(3)	資格取得支援事業の利用件数	件	H30	160	170	265	関係団体や地元新聞社へ情報提供し周知に努めた結果、在職者と求職者の利用が増加し、目標値を上回った。
63	3-④-(4)	官民共同の外国人受入れ検討組織の設立	件	—	—	—	—	コロナ禍により、設立に向けた積極的な取組みはできなかったが、コロナ後を見据え、会議等に参加し情報収集に努めた。

第2期総合戦略 数値目標、重要業績評価指標(R4年度)

No	施策項目	重要業績評価指標(KPI)	単位	基準値		R4		令和4年度の取組状況等
				年度		目標値	実績値	
基本目標4 数値目標		観光入込客数×宿泊数と日帰り客数、温泉施設入浴数の合計	万人	H30	207	237	179	新型コロナウイルス感染症の影響により低迷したものの。
		Aターン者数(市等が関与しているもの)	人	H30	20	24	18	定住奨励金による関与9人、移住支援金による関与5人。地域おこし協力隊4人の計18人。移住相談イベント等での相談対応者の移住について捕捉できていないため、捕捉方法を検討する。
64	4-①-(1)	宿泊者数	万人	H30	24.8	25.5	23.5	新型コロナウイルス感染症の影響により低迷したものの。
65	4-①-(1)	歴史まちづくりイベントの参加者数	人	H30	130	170	0	新型コロナウイルス感染症の影響により、歴史まち歩き及びシンポジウム等のイベントを休止した。
66	4-①-(1)	年間延べ宿泊者数(ロッジ・緑地)	人	H30	297	517	254	使用許可申請を電子申請に対応するなど、利用者の利便性を向上させることにより利用者の拡大に努めたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり団体客の利用者数が減少し目標値に届かなかった。
67	4-①-(2)	SNSのフォロワー数	人	H30	6,000	7,500	1,558	コロナ禍で誘客促進を自粛したことおよび情報発信内容の工夫や頻度が不十分となった。
68	4-①-(3)	訪日外国人宿泊者数	件	H30	2,075	8,000	421	新型コロナウイルス感染症の影響により低迷した。
69	4-①-(4)	北東北DMO広域連携体による観光情報の共通プラットフォーム化	件	—	—	—	—	秋田犬ツーリズムをはじめとした各DMO団体により実施を検討している。
70	4-①-(5)	新規の大規模な集客型スポーツイベントの開催	件	H30	0	1	1	東京オリンピックゴールドメダリスト水谷隼さん・リオパラリンピック日本代表の吉田信一さんによるトークショー&卓球教室を開催した。卓球、パラ卓球教室を同時に開催することでバラスポーツを意識し、より共生社会の醸成に資するイベントとなった。新型コロナウイルス対策を講じ、700人の卓球ファンが参加した。
71	4-①-(6)	地域スポーツコミッションの設立	件	—	—	1	1	設立後、実質2年目を迎え、スポーツツーリズムのもととなる新たなアクティビティの創出や担い手の発掘に力を注いできた。また県内のトップチームによる教室の開催など、スポーツインライフのきっかけづくりを進めている。
72	4-②-(1)	移住フェア等相談件数(フェア・相談会のみ)	件	H30	80	80	38	新型コロナウイルス感染症の感染状況等が落ち着きを見せ移住相談イベント等が再開されるようになったが、コロナ以前に比べイベントの開催件数が減少したことで人流が回復していないこともあり、目標値を下回る結果となった。次年度はより多くのイベントへ参加し、情報発信に努めたい。
73	4-②-(1)	Aターン者数(市等が関与したもの)	人	H30	20	24	18	定住奨励金による関与9人、移住支援金による関与5人。地域おこし協力隊4人の計18人。移住相談イベント等での相談対応者の移住について捕捉できていないため、これの捕捉方法を検討する。
74	4-②-(1)	同報メール登録者数	人	H30	319	343	86	市民課に協力してもらい、転入者に大館びとの会の案内チラシを配布したが、チラシを見ての問い合わせは1件も入らなかった。大館びとの会の開催が1回のみであったこともあり、昨年からは増加せず。
75	4-②-(1)	ふるさとワーキングホリデー事業参加者数	人	—	—	5	5	新型コロナウイルス感染症の影響で参加キャンセルが4人出たものの、関係人口創出拡大事業で交流がある相模女子大学生など5人が参加した。
76	4-②-(2)	空き家バンク新規契約数	件	H30	29	40	29	目標値の7割強程度の実績となったが、直接的な働きかけが難しい項目であることから、制度の周知を強化し、魅力的な物件の登録を促すことで、間接的に成約件数の向上を図りたい。
77	4-②-(2)	空き家バンク新規登録数	件	H30	44	60	41	大館市外に在住する方宛の固定資産税納税通知書に空き家バンクの案内チラシを同封し、制度の周知を図るとともに登録を促した。
78	4-②-(2)	移住者へのリフォーム支援件数	件	H30	6	23	14	広報やホームページで市民へPRを行い、制度の周知を図った。
79	4-②-(3)	継続的に地域活動に関与する人数	人	H30	-	-	10	渋谷区観光協会をはじめとした渋谷区の方々や、相模女子大学や女子栄養大学の教授の方々とは継続して関係構築に努めた。
80	4-③-(1)	教育旅行誘致人数	人	H30	587	712	919	新型コロナウイルス感染症が拡大し県外からの受け入れが減少したが、代わりに秋田県内の学校を受け入れたことで、目標達成することができた。
81	4-③-(1)	県外教育実習生等の人数	人	H30	16	36	1	大学や教育実習生から直接学校に申し込みがあり実施しているケースが10~15件程度あるが、補助事業を活用した教育実習の実施は1件であった。
82	4-③-(1)	サマー・ウィンタースクールの人数	人	H30	21	24	18	16名募集のところに54名の申し込みがあり、2枠増設した。渋谷区の小学5・6年生にきりたんぼ鍋づくりや雪遊びなど、大館の文化や環境を体験してもらえた。なお、R4年はウィンタースクールのみ交流推進課へ移行。サマースクールはR5年度の移行であり、R4年度は実施なし。
83	4-③-(1)	県外教育視察研修の受入れ件数	件	H30	38	46	149	視察の申し込みに対して、概ね全ての案件に対応できた。この他にオンラインを活用した研修受け入れ案件もあり、今後多少の増減はありつつ、この状況が続くと思われる。
84	4-③-(2)	友好都市等交流事業助成金利用件数	件	H30	5	9	0	移動制限等も緩和されたが、利用実績はなしとなった。R5.5.8に新型コロナが5類に移行されたことで、人流の活性化が期待される。各地域、行政レベルでの交流はオンライン等で継続されてきたことから、広報等で周知利用促進を図っていく。